

ドイツ学術情報 (2012 年 1 月～3 月)

< 目 次 >

- 1 ピックアップニュース …p1
 - ① 連邦憲法裁判所がヘッセン州の大学教授の給与を「不当に低額」と判断
 - ② 連邦と州の「提携禁止条項」改正の動き
- 2 その他のニュース …p3
 - ① 連邦奨学金の支出が過去最高に
 - ② DAAD 新会長にマルグレート・ヴィンターマンテル氏が就任
 - ③ HRK が“Higher Education Compass”を改良
 - ④ サステイナビリティを専門とする研究者を学校に派遣
 - ⑤ 先端クラスターは欧州にとって模範となる
 - ⑥ DFG の専門審査委員選挙の最終結果
 - ⑦ コア施設:優れた研究インフラ展開の促進
 - ⑧ ダブルディグリーによる国際的な一体型履修課程
 - ⑨ 連邦議会において DFG による展示会「アイデアから発見へ」が始まる

1 ピックアップニュース

① 連邦憲法裁判所がヘッセン州の大学教授の給与を「不当に低額」と判断

ヘッセン州マールブルク大学の化学の教授が、自分に適用される給与額が低すぎると訴えていた裁判で、連邦憲法裁判所は 2 月 14 日、給与が「不当に低額」とあるとの判断を下した。同教授の給与は「W2」という給与グループに属し、同教授は月給として 3,890.03 ユーロの基本給と、付随する能力給として 23.72 ユーロが支給されていた。判決によれば、ヘッセン州の教授に適用される W2 の額が憲法に反し、大学教授の生活費としては適切ではないという。ヘッセン州は、2012 年末までに給与支払いの修正を行わなければならない。この判決は、ドイツ全体の大学教授の給与額の見直しに影響を与えると見られ、すでにノルライン・ヴェストファーレン州やブランデンブルク州といったいくつかの州では、60 ページに及ぶ判決文の調査を始めている。

2005 年から新たに雇用される大学教授には、基本給と付随する能力給から構成される新しい給与体系がドイツ全土で適用されている。これに基づく給与は、基本給は従前の給与より 4 分の 1 弱低い。給

与体系は W1、W2、W3 の 3 段階に分かれ、ジュニアプロフェッサーは W1 をもとに、それ以外は W2、W3 をもとに給与が支給される。なお、W とは学問を表す“Wissenschaft”の頭文字を取ったものである。

給与額は州により異なり、W2 の平均月額、最も高いバーデン・ヴュルテンベルク州では 4,578.74 ユーロ、最も低いベルリンでは 4,027.35 ユーロ、ヘッセン州は 4,239.10 ユーロである。全国の平均月額は、W1 は 3,833.31 ユーロ、W2 は 4,371.44 ユーロ、W3 は 5,296.58 ユーロであるという。賛否両論の 2006 年の連邦制度改革により、州政府は基本給における給与の適用を独自に決めることができるようになった。

連邦教育研究省(BMBF)のシャヴァーン大臣は、裁判の結果を踏まえ、若い大学教員により高い給与を支払うよう、州政府に求めた。大学生の数が増加しており、教員の需要は大きくなってきている。しかし、シャヴァーン大臣は、給与増額のために、連邦政府としては州政府に対して追加財政支援をする可能性がないとも述べた。

(参考資料)

2012 年 2 月 14 日付け WELT ONLINE“Deutschlands Professoren sollen mehr verdienen“

dpa(ドイツ通信)-Dossier Bildung Forschung Nr. 06/2012 06.Februar 2012

dpa(ドイツ通信)-Dossier Bildung Forschung Nr. 08/2012 20.Februar 2012

② 連邦と州の「提携禁止条項」改正の動き

ドイツでは、2006 年の連邦制度改革の際に基本法(憲法)に取り入れられた「提携禁止条項」により、州のみが主権を持つと基本法に規定されている教育等の分野に対して、連邦政府が投資したり協力したりすることが禁止されている。現行の制度下で連邦政府が支援できるのは、学術研究を行う機関のうち、大学以外の研究機関に限られ、大学に対する支援については時限的かつテーマを定めた「エクセレンス・イニシアティブ」や「大学協定」といったプロジェクトに限られている。これらのプロジェクトの終了後の大学への支援や、州政府の財政緊縮政策により大学が影響を受けていることが議論になっているが、連邦政府と州政府の長期的な協働を可能にするため、基本法の「提携禁止条項」の改正への動きが出てきている。3 月 4 日に連邦政府の連立委員会は、学術分野での連邦政府と州政府の協力可能性を拡大することを決定した。この改正が実現されると、連邦政府と州政府は、「プロジェクト」によるだけでなく、「恒常的に」「大学の学術・研究施設」に対して支援することができるようになる。

連邦教育研究省(BMBF)のシャヴァーン大臣は、「ドイツを魅力的な学術拠点として維持するために、連邦政府による大学の研究への支援は必要である」と述べた。

ドイツ大学長会議(HRK)とドイツ学生組合連盟(DSW)は、この改正案を歓迎している。

連邦教育研究省(BMBF)は、担当部局にて改正の草案を作成しているところであり、引き続いて関係部局間の調整が行われる。その後、州政府と地方自治体の中央組織が調整に加わり、夏休み前にも草案が内閣に提出されることになっている。連邦参議院と連邦議会での採決は、秋に計画されている。この日程によれば、2013 年 3 月 1 日に基本法改正は効力を発することになる。

基本法改正には、連邦参議院と連邦議会の3分の2の賛成が必要であるが、野党や州政府とは今後の調整が必要である。政府の改正案では、学術分野における提携禁止条項(基本法第91条b項)の改正のみが計画されているが、野党である社会民主党(SPD)はそれだけでは足りないと考えており、例えば提携禁止条項は学校教育分野(基本法第104条c項)でも改正し、全日制学校*や児童・生徒への支援も連邦政府が恒常的に行うべきとしている。州政府との調整も進められているところであるが、全州において、教育政策における州の高権は揺るがされてはならない、という点では一致している。

*全日制学校:ドイツの学校は伝統的に午前で終了するが、それでは家庭の影響が大きすぎ、社会階層の固定化につながっているという議論があり、教育機会均等のために全日制学校の整備を進める動きがある。

(参考資料)

BMBF HP(<http://www.bmbf.de/press/3243.php>)

dpa(ドイツ通信)-Dossier Bildung Forschung Nr. 07/2012 13.Februar 2012

dpa(ドイツ通信)-Dossier Bildung Forschung Nr. 11/2012 12.März 2012

dpa(ドイツ通信)-Dossier Bildung Forschung Nr. 12/2012 19.März 2012

2 その他のニュース

①連邦奨学金の支出が過去最高に(18 Jan 2012)

連邦教育促進法(BAföG)に基づく奨学金(連邦奨学金)への連邦政府と州政府による支出が、2008年の約23億ユーロから2010年の29億ユーロ弱へと大幅に増加した。これは、2012年1月18日に連邦閣議で承認された「第19次連邦教育促進法(BAföG)報告書」により明らかになったものである。同報告書は隔年で刊行されている。

大学生の平均奨学金月額額は、2008年の398ユーロから2010年の436ユーロへと、10%近くの増加となった。連邦奨学金を受給している学校の生徒や大学生の数も、月次平均で2008年の52万5,000人から58万5,000人へと、人数にして6万人、率にして11.4%の増加となった。その内大学生は、2008年は33万3,000人、2010年は38万6,000人で、16%近くの増加となっている。

大学生のうち、連邦奨学金を受給している者の割合も、2008年の24.4%から2010年は25.8%へと上昇している。同時に、外国滞在中に連邦奨学金を受給している大学生の割合も、前回の調査時に比べて54%増加している。2010年には、4万3,200人近くの生徒と大学生が外国で連邦奨学金を受給した。ドイツ国内で連邦奨学金を受給した外国籍の生徒や大学生の数も目に見えて増加しており、2010年は2008年に比べて28%増の6万人となった。

これらの数値の上昇は、連邦教育促進法の第22次と第23次の改正によるところが大きい。連邦奨学金の予算は65%を連邦政府が、35%を州政府が負担している。

BMBF HP(<http://www.bmbf.de/press/3223.php>)

(関連記事)

JSPS ボン研究連絡センター 「ドイツ学術情報(2010 年 10 月～12 月)」 p1～p2

http://www.jsps-bonn.de/fileadmin/bonbon_dokei/BonBonDokei30gaku.pdf

②DAAD 新会長にマルグレート・ヴィンターマンテル氏が就任(16 Jan 2012)

2012 年 1 月 1 日に、マルグレート・ヴィンターマンテル氏(ドイツ大学長会議(HRK)会長)がドイツ学術交流会(DAAD)会長に、ジョイブラート・ムカジー氏(ギーセン大学学長)が副会長に就任した。ヴィンターマンテル新会長は 1 月 16 日にベルリンで開かれた記者会見において、現在 24 万 5,000 人であるドイツ国内の外国人留学生数を 2019 年末までに 30 万人とすること、ドイツ人大学生の 2 人に 1 人が卒業までに外国での経験を積むこと、などといった目標を発表した。DAAD は「変わりゆく世界 交流で世界が変わる」を 2012 年の年間テーマに掲げている。

DAAD HP

(<http://www.daad.de/portrait/presse/pressemitteilungen/2012/19484.en.html>)

DAAD Tokyo HP

(http://tokyo.daad.de/wp/2012/01/wintermantel_amtstritt201/)

③HRKが“Higher Education Compass”を改良

ドイツ大学長会議(HRK)は、大学入学希望者に必要な情報を提供する“Higher Education Compass”(“Hochschulkompass”)を改良した。これにより“Higher Education Compass”は、大学がどのような履修課程を提供しているか、どのような博士号取得可能性があるか、どのような国際協働が行われているか、さらに大学事務局や学生相談窓口の連絡先等の情報を提供する中心的なプラットフォームとなった。履修課程についてだけでも、1 万 6,000 件の情報を提供している。

“Higher Education Compass”は近日中に英語でも用意される予定である。

HRK HP(http://www.hrk.de/95_2856.php)

④サステナビリティを専門とする研究者を学校に派遣

環境を保護する、資源を節約する、種の多様性を維持する。こうしたテーマは学校の授業においてもより重要な役割を果たすようになってきているが、ウェブサイト <http://www.forschungsboerse.de/> を通して、学校の教諭が近隣の大学や研究所から、サステナビリティ(持続可能性)を専門とする研究者を学

校に招へいすることができるようになった。これを可能にしたのは、「学術年 2012ー未来プロジェクト 地球」における連邦教育研究省(BMBF)のイニシアチヴ「研究いちば」である。「学術年」は BMBF と「科学における対話(Science in Dialogue)」との共同イニシアチヴで、2000 年から社会と研究との交流をテーマとしている。

学校の生徒はサステイナビリティが何を意味するかについて、教室で研究者から直接学ぶことができる。持続可能な発展を専門とする研究者 70 人が、すでに連絡用データベースに登録しているが、登録している研究者の専門分野は、自然科学から人文・社会科学まで、極めて多様である。日本の中高生にあたるくらいの年代の生徒を特に対象としているが、研究者による小学校への訪問も可能であり、それも意義深いものとしている。

BMBF HP(<http://www.bmbf.de/press/3238.php>)

⑤先端クラスターは欧州にとって模範となる

研究とイノベーションにおける優れた成果は、地域のハイテククラスターでの協働を通して、効果が何倍にもなって生まれる。2 月 23 日、24 日にかけて、政界、経済界、学術界から 500 人を超える専門家を集めて、連邦教育研究省(BMBF)による第 2 回国際クラスター会議が開かれる。

この会議では、過去 3 回の公募により採択された 15 の「先端クラスター」がプレゼンテーションを行う。先端クラスターでは、ある地域における先進的な企業や研究機関、その他の技術やイノベーションの領域における関係機関がその力を結集し、ドイツの技術革新能力や成長に貢献している。第 3 回目の公募で 2012 年 1 月に採択されたクラスターは、戦略の転換に対して 5 年以上にわたり合計 4,000 万ユーロが BMBF から支援され、計 15 のクラスターに対しては合計で 6 億ユーロが支援される。関係企業からも同額が支出されるため、ドイツのイノベーション拠点に対して追加的に 12 億ユーロが投資されることになる。

BMBF のシャヴァーン大臣は、「先端クラスターは、経済界と学術界がいかんにしてアイデアを発展させ、それにより差し迫った地球的課題に対する回答を生み出すための模範的な例である。そこでは、エネルギーや資源の効率性や、オーダーメイド医療、革新的物流、人口学的変化の形成に役立つ研究が行われる。先端クラスターは未来を豊かにするものである」と述べた。

BMBF HP(<http://www.bmbf.de/press/3239.php>)

⑥DFG の専門審査委員選挙の最終結果

JSPS ボン研究連絡センター「ドイツ学術情報(2011 年 10 月～12 月)」で報告した DFG 専門審査委員選挙の最終結果が公表された。最終結果は次の URL に掲載されている。

www.dfg.de/en/rb-election2011

DFG HP

(http://www.dfg.de/en/service/press/press_releases/2012/press_release_no_05/index.html)

(関連記事)

JSPS ボン研究連絡センター 「ドイツ学術情報(2011 年 10 月～12 月)」 p6～p7

http://www.jsps-bonn.de/fileadmin/bonbon_dokei/BonBonDokei34gaku.pdf

⑦コア施設:優れた研究インフラ展開の促進

ドイツ研究振興協会(DFG)のプログラムはほとんどが研究支援のプログラムであるが、「コア施設(Core Facilities)」は研究体制の向上のために開発された DFG のイニシアチヴである。

多くのドイツの大学や研究機関は、優れた、また多くの場合ユニークな学術的実験機器施設やインフラを持っている。これらの先進的なテクノロジーを利用できることは、多くの学術分野において重要な役割を果たす。しかし、実験機器センターやネットワークの共同利用制度を作ろうとすると、膨大な構造的なプロセスが必要となる。DFG のファンディングプログラム「コア施設」は、利用に適した施設について、外部の研究機関の者も含むインフラの利用や、管理の専門化に寄与するパイロットプロジェクトを支援することにより、この問題に焦点を当てるものである。

「コア施設」は 2011 年 3 月に公募され、2011 年 7 月 15 日の締切までに 57 件の申請があり、審査により 11 件が採択された。採択された大学や研究機関には、それぞれ 3 年間で合計 45 万ユーロが支援される。DFG のマティアス・クライナー会長は、「大学はそれぞれの実験機器施設やインフラをどのように管理し、有効活用するかについて再考している。このプログラムへの公募に対する反応は、この分野への支援が必要であることを示している」と強調し、DFG はこの分野に対する別のファンディングプログラムの公募を今年中に行うことを計画している。

DFG HP

(http://www.dfg.de/en/service/press/press_releases/2012/press_release_no_07/index.html)

(http://www.dfg.de/foerderung/info_wissenschaft/archiv/2011/info_wissenschaft_11_16/index.html)

⑧ダブルディグリーによる国際的な一体型履修課程

DAAD の助成プログラム「ダブルディグリーによる国際的な一体型履修課程」の今回の公募に対して、前回の公募時を約 20% 上回る数の大学から 189 件の申請があった。

このプログラムでは、最低限バチェラー課程で 1 年間、マスター課程で 1 セメスターの外国滞在が求められる。本プログラムを受講するドイツ人学生には、試験の成績認定が問題なく行われ、外国滞在により在学期間が延長されることもない。また、語学や履修科目に関する準備クラスも提供され、最終的には所属大学と協定大学の両方から認められた学位が授与される。さらに、異文化体験は人格形成に役

立ち、ダブルディグリーは国際的な労働市場において、より良い就業機会を提供する。最も人気の高い相手国は、ロシア、ポーランド、中国、アメリカ、イギリスである。

このプログラムは連邦教育研究省(BMBF)による予算措置を受けており、大学への支援期間は最長 8 年である。2012 年 5 月の委員会において申請書の選抜が行われる。このプログラムの次回の公募は、2012 年 10 月に予定されている。

DAAD HP

(<http://www.daad.de/portrait/presse/pressemitteilungen/2012/20171.de.html>)

⑨連邦議会において DFG による展示会「アイデアから発見へ」が始まる

ドイツ研究振興協会(DFG)の個人助成の枠組みにより支援を受けた 10 の研究プロジェクトを紹介する巡回展示会「アイデアから発見へ」が、3 月 7 日からベルリンの連邦議会で始まった。ここでは、今日の研究テーマの多様性や、個人の研究者により進められた創造的な問題解決方法が解説されている。

この展示会は、研究者個人による研究の潜在的な可能性や成果を広く周知することを目的としている。DFG の予算の約 35%を占め、毎年約 2 万件のプロジェクトを支援している個人助成は、DFG の予算構成の中で最も大きなプログラムに位置付けられている。

観察や初期のアイデアや疑問が、どのようにして研究プロジェクトに発展するかについて、来場者が体験できるよう双方向的な展示がなされている。研究者が発見までにたどる道のりや、研究が学術や社会にどのような影響を及ぼす可能性があるかについても知ることができる。

展示会は各州を巡回することになっており、ベルリンの連邦議会の後にはニーダーザクセン州の学術文化省に展示されることになっている。見学には事前の申し込みが必要。

DFG HP

(http://www.dfg.de/en/service/press/press_releases/2012/press_release_no_09/index.html)

ぼんぼん時計第 35 号
日本学術振興会ボン研究連絡センター
JSPS Bonn Office
Ahrstrasse 58, D-53175 Bonn (事務所住所)
Postfach 20 14 48, D-53144 Bonn (郵便物用)
Phone +49 (0) 228-375050 Fax +49 (0) 228-957777
www.jsps-bonn.de